

# がんセンター 便り

宮城県立がんセンター地域医療連携室



## がん情報ラジオについて



当センターでは、がんセンターのスタッフががんに関する話題を紹介していくラジオ番組「がん情報ラジオ」をエフエムなとりにて放送しています。

放送時間は、毎週金曜日夕方5時30分から5時43分、翌日土曜日の午前9時16分から9時29分に再放送も行ってあります。

また、がん情報ラジオはYouTubeにて過去放送分もすべてご視聴いただけます。がん情報ラジオでご検索いただくか、右記のQRコードからご視聴いただけます。

QRコードを読み取りチャンネル登録をしていただくと幸いです。

6月は「最新の乳がん治療」について乳腺外科の大貫幸二医師でお送りします。



## 外来新患診療体制表

2021年5月現在

(宮城県立がんセンター)

診療科	曜日	月	火	水	木	金
血液内科		●	●		●	●
腫瘍内科		●		●		●
呼吸器内科		●	●	●	●	●
消化器内科		●	●	●	●	●
頭頸部内科			●	●		
緩和ケア内科			●	●		●
呼吸器外科			●	●		●
消化器外科			●			●
乳腺外科		●			●	
整形外科			●		●	
形成外科			●			●
脳神経外科		●		●		●
泌尿器科		●		●	●	
婦人科		●	●		●	
頭頸部外科		●	●		●	
放射線治療科		●	●	●	●	●

診療受付時間：午前8時30分～11時00分 TEL 022-384-3151 (代) FAX 022-381-1169 (地域医療連携室)

## 先進医療「MRI撮影及び超音波検査融合画像に基づく前立腺針生検」開始しました！！

泌尿器科診療科長 <sup>かわむら</sup>川村 <sup>さだふみ</sup>貞文

2021年4月1日からBiojet®システムを用いた「MRI撮影及び超音波検査融合画像に基づく前立腺針生検法」(以下、「MRI融合生検」)を行っています。

このシステムは、事前に撮影して取り込んだMR画像データとリアルタイム超音波画像とを融合させることで、MRIでがんが疑われる部位を正確にエコーガイド下に穿刺することを可能とするナビゲーションシステムです。

導入施設は、宮城県内では当センターのみです。

従来から前立腺生検法は、超音波ガイド下に一定間隔で10～12か所穿刺を行う系統的生検が標準術式であり、これに疑わしい部位を狙って穿刺する標的的生検を要すれば適宜追加するというのが通常行われている方法です。

前立腺癌の局在診断についてはMRIが最も診断能に優れていますが、前立腺生検は超音波ガイド下で行いますので、術者は頭の中で、MRIで疑われる部位をイメージして生検を行っていました。

そのためMRIでは前立腺癌が疑われていても、超音波ガイド下生検のみではがんを発見できない場合もあったと推測されます。

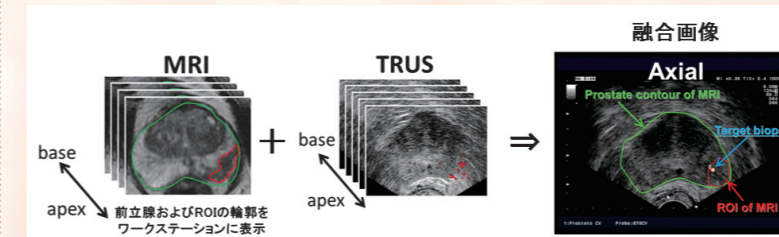
このMRI融合生検により、通常の系統的生検と比べて正確かつ信頼のある診断が可能になりました。

現在積極的にMRI融合生検に取り組んでおりますので、検査をご希望される患者さん、特に、MRIでがんが疑われるが検出されない患者さん、再生検が必要な患者さんなどがいらっしゃいましたらどうぞご紹介ください。

以下に検査概要をご案内いたします。

- 腰椎麻酔で行うため、検査中痛みはありませんが1～2泊の入院が必要です。
- 医療費は入院料など健康保険適応の医療費のほかに、先進医療費 約11万円が加算されます。
- MRI融合生検は、がんが疑われる部位一か所につき、2～3本穿刺します。
- 系統的生検+MRI融合生検を行います。最近の報告では、系統的生検とMRI融合生検の両者を併用したほうががん発見率は高いとされているからです。将来的には穿刺本数を減らせる可能性があると考えています。
- 合併症は特有のものではなく通常の生検と同等と考えられます。

詳しくは泌尿器科外来までお問い合わせください。



そのためMRIでは前立腺癌が疑われていても、超音波ガイド下生検のみではがんを発見できない場合もあったと推測されます。

このMRI融合生検により、通常の系統的生検と比べて正確かつ信頼のある診断が可能になりました。



左側より <sup>かわむら</sup>川村貞文 <sup>さだふみ</sup>明円真吾 <sup>みょうえん</sup>安達尚宣 <sup>あだち</sup>成田玲奈



### 交通案内

**J 桜交** 東北本線名取駅下車、バスまたはタクシーを利用  
**南交** 名取駅西口から「県立がんセンター線」(なとりん号)を利用  
**自家用車** 名取駅西口から「北目上原線」(なとりん号)を利用  
 仙台南インターからは、国道286号バイパス経由  
 県道仙台・岩沼線を利用 (所要時間約15分)

---

### 地域医療連携室のご案内

地域医療機関の先生方からご紹介を受けた患者さんの診療予約をお取りしてスムーズな受診ができるようにしております。

○受付 午前8時30分～午後5時15分  
 ○TEL (022) 381-5152 (直通)  
 (022) 384-3151 (代) 内線123  
 ○FAX (022) 381-1169 (地域医療連携室)

**宮城県立がんセンター**  
 〒981-1293 宮城県名取市愛島塩手字野田山47の1  
 電話(代表) (022) 384-3151 FAX(企画総務課) (022) 381-1168

□ゴマークの3本の柱は「治療、予防、研究」を、上の「まる」は患者さんを表わしています。3本の柱が、患者さんを支えるという意味です。

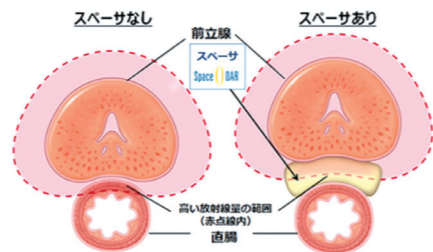
# 前立腺癌放射線治療における ハイドロゲルスペーサー挿入

放射線治療科診療科長 久保園 正樹

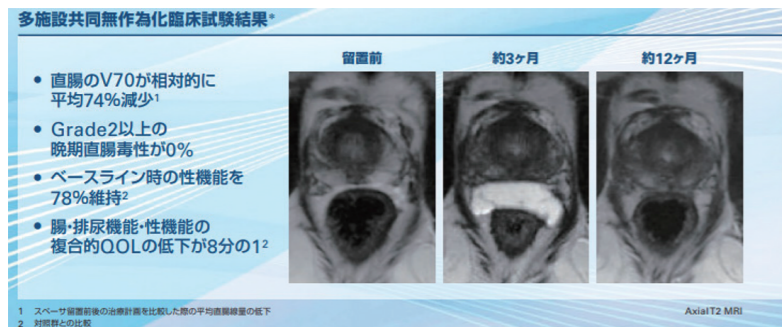


前立腺癌放射線治療において、前立腺と直腸の間隙に留置するハイドロゲルスペーサー（SpaceOAR®）が開発されました。これにより直腸線量が低減され、直腸有害事象の軽減が期待されます。当センターでは本年2月より導入いたしましたので、ご紹介します。

当科では前立腺癌に対する強度変調放射線治療(IMRT)を積極的に施行しており、ここ数年の症例数は年間80-100例ほどです。前立腺癌に対する放射線治療の主な副作用として、膀胱・尿道に照射される事による尿路有害事象と直腸に照射されることによる消化管有害事象があります。IMRTは従来法と比べて膀胱や直腸の線量を低減し、有害事象の発生を抑えることが可能です。しかしながら、前立腺に確実に線量を投与するためにはある程度の幾何学的マージンを含む必要があり、高線量域と他臓器の一部が重複することは避けられません。これにより、頻度は減少したものの有害事象が発生します。そこで、前立腺と直腸との1mm程の間隙にスペーサーを留置し、物理的に距離をとることで高線量域と直腸の重複をなくし、有害事象の軽減を図る目的で開発されたのがSpaceOAR®です。具体的にはゲル挿入により10mm程度（5mm以上が望ましいとされています）広げることによって直腸に照射される高線量域を73.5%減少させます。これにより、軽症および中等症の直腸障害はそれぞれ75%、100%低下すると報告されています。ゲルは留置後、約3か月間スペースを維持し、その後約6か月かけて体内に吸収されます。SpaceOAR®は化粧品の



SpaceOAR®は化粧品の



乳化剤・便秘症の治療薬・医薬品や化粧品の材料等に幅広く用いられているポリエチレングリコールと水できており、生体での安全性は高いと思われます。実際の手技では、手術室にて碎石位となり、仙骨麻酔と局所麻酔を行い、経直腸エコーガイド下で会陰部から経皮的に穿刺し、前立腺と直腸の間隙にゲルを注入します。処置時間は麻酔も含めて通常30分～1時間ほどです。留置術に伴う副作用として、便意の切迫感、直腸出血（下血）、下痢、感染、アレルギーなどが報告されています。ごく軽度なものを含めて発生頻度は10%以下とされています。当科の医師は、製造元のBoston Scientific社からSpaceOAR®の施行医認定を受けていますので、適応等に関してお気軽にお問合せください。

SpaceOAR®の注入は経会陰的にバイブレンの超音波プローブを用いて行う  
針先から出て数秒で凝固し固形化、3か月間/約1cmのスペースを維持

注入:	経会陰的/超音波ガイド下	PEGハイドロゲルの化学的性質
凝固:	10秒以内	・水性ポリマー
持続性:	3ヶ月/約1cm持続	・重合中、熱を発生しません
吸収:	6ヶ月～12ヶ月で吸収	・加水分解によって分解されます
		・直腸周囲脂肪に連し、必要な場所で留置可能

# 新任医師紹介

令和3年4月1日付け採用

- ①診療科
- ②氏名  
(ふりがな)
- ③出身地
- ④挨拶・抱負等

①乳腺外科 診療科長  
②大貫 幸二  
(おおぬき こうじ)  
③群馬県桐生市  
④岩手県立中央病院で乳腺外科を立ち上げて16年半勤務した後に、当センターに着任しました。都道府県がん診療連携拠点病院、がんゲノム医療連携病院にふさわしい乳腺診療を行っていく所存ですので、どうぞよろしくお願いたします。

①頭頸部外科  
②中里 瑛  
(なかざと あきら)  
③東京都町田市  
④宮城県立がんセンターでレジデント約1年半を経て現職となりました。コロナの影響は多分にある毎日ですが、がん治療にも一層力を注いでいきたいと考えております。よろしくお願いたします。

①形成外科  
②遊佐 優  
(ゆさ ゆう)  
③仙台市  
④石巻赤十字病院から赴任しました遊佐と申します。これまでは外傷を主に診療を行う機会が多かったので、再建外科という専門領域の診療に携われることに感謝しています。どうぞよろしくお願いたします。

①消化器内科  
②目黒 陸  
(めくろ りく)  
③仙台市  
④4月から消化器内科のレジデントとして勤務になった目黒陸と申します。それぞれの分野のエキスパートがいるがんセンターで学ぶことができ、大変嬉しく思っております。まだまだ未熟でありご迷惑をおかけするとは思いますが、何卒よろしくお願いたします。

①呼吸器内科  
②鶴見 恭士  
(つるみ きょうじ)  
③栃木県  
④今年度より宮城県立がんセンター呼吸器内科で勤務させていただいております。地域に根ざした医療を提供できるよう日々邁進して参りますので宜しくお願い致します。

## 退職医師の紹介

乳腺外科 河合 賢朗  
(令和3年2月末退職)

乳腺外科 小坂 真吉  
(令和3年3月末退職)

頭頸部外科 岸本 和大  
(令和3年3月末退職)

形成外科 今井 利郎  
(令和3年3月末退職)